社会科学部入試Q&A

●学部名称変更について
Q1. 公共政策学部は、2026（令和8）年4月に社会科学部に名称変更するとのことですが、その目的は何ですか？
A1. 京都府立大学では、「新生・京都府立大学」プランにより、2024（令和6）年度に3学部を5学部へと発展させる学部・学科再編を行うなど、小規模ながら文理融合の総合大学としての強みを打ち出してきています。
　2022（令和4）年度に高等学校で「公共」が公民の必修科目となるなど、「公共政策学部」は2008年の設立から先駆的な名称でその役割を果たしてきましたが、教育内容が政治や政策、地方自治などに特化した印象をもたれることもありました。そこで、本学部が7つの社会科学分野を擁する教育内容であることを明確に打ち出すため、「社会科学部」へと名称変更することにしました。
　2つの学科名称は変えることなく、法学、政治学・政策学、経済学を中心に学べる公共政策学科および、社会福祉学、社会学、教育学、心理学を中心に学べる福祉社会学科という2学科体制で、社会科学の手法をベースに公共的課題や生活課題の発見と解決に取り組みます。7領域の専門性と学際性をいかし、より多様で意欲ある学生、受験生のニーズに応えていきます。
詳しくは以下の新学部チラシを参照してください。

https://www.kpu.ac.jp/media/Neufak.pdf

Q2. 社会科学部で求める学生像は？
A2. 社会科学とは私たちが生活する「社会」や「人間」を対象とする学問領域です。社会科学部では、すべての人の幸福＝”Well-Being”を目指し、科学的認識に基づいて「人間」や「社会」のありようを理解し、公共的課題や生活課題を発見・解決することを目指しています。「なぜ、生きづらさを抱える人が増えているのだろう？」「AI技術の発展で失業者が増える？」といった問いや、「誰かのために役に立ちたい」「社会を少しでも良くしたい」といった願いをもっている方のチャレンジを心から応援します。
　社会科学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）について、詳しくは以下を参照してください。

https://www.kpu.ac.jp/guidance/policy/admission-policy/

Q3. 新学部になるにあたり、募集人員は変更されますか？
A3. 社会科学部の公共政策学科と福祉社会学科の募集人員に変更はありません（各学科52名）。各学科の学校推薦型選抜、一般選抜前期日程・後期日程の募集人員も変更はありません。

●学校推薦型選抜について
Q1.一つの高校が推薦できる人数は何名ですか？高校に複数の課程が併置されている場合は、何名ですか。
A1. 公共政策学科と福祉社会学科のそれぞれについて、全日制、定時制及び通信制の課程から各2名以内です。したがって、全日制のみの高校であれば、各学科2名で最大4名ご推薦いただけます。全日制と定時制が併置されている高校の場合は、各課程につき最大4名、つまり高校全体では最大8名推薦していただけます。」

Q2. 推薦条件で、「評定平均」の基準はありますか？
A2. ありません。ただし、推薦条件で「成績優秀な者　ただし、外国語12単位以上を修得している者」としており、本学部・学科で学ぶ能力があると高等学校が責任をもって推薦できる者が対象となります。

Q3. 配点は、応募書類（推薦書、調査書、志望理由書）が20点、小論文180点の合計200点となっていますが、応募書類の評価に合格の最低基準はありますか。
A3. ありません。最終の合否は、推薦書、調査書、志望理由書及び小論文の成績による総合判定になります。応募書類の作成にあたっては、アドミッション・ポリシーをよく読み、本学部・学科の志望動機及び自己PRを具体的に記載してください。

●一般選抜について
Q1. 新学部入試では、大学入学共通テストの「数学」も2倍に換算する候補となるとありました。数学が得意な学生が、有利になる入試に変わるのでしょうか。
A1. 2025（令和7）年度入試までは、大学入学共通テストの 「地歴・公民」の素点を2倍（200点）に換算していました。2026（令和8）年度以降の入試では、**「地歴・公民」及び「数学」のうち、素点の高い方を2倍（200　　点満点）に換算し、素点の低い方をそのまま利用する（100点満点）**とします。つまり、「地歴・公民」が得意な場合も、「数学」が得意な場合も、同様に高く評価されることになり、より多様な強みを活かせる入試に変わります。

◆大学入学共通テスト利用教科・科目の配点の変更
（令和７年度まで）
「地歴・公民」の素点を２倍（200点）に換算

（令和８年度）
「地歴・公民」及び「数学」のうち、素点の高い方を２倍（200 点満点）に換算し、素点の低い方をそのまま利用する（100点満点）
（例）「地歴・公民」が「数学」よりも高得点の場合は、「地歴・公民」を２倍（200点満点）
「数学」が「地歴・公民」よりも高得点の場合は、「数学」を２倍（200点満点）

Q2. 一般選抜後期日程の小論文は、学校推薦型選抜とは異なりますか。
A2. 学校推薦型選抜と一般選抜後期日程の小論文試験についてはいずれも、アドミッション・ポリシーの【入学者選抜の方針】をご確認ください。

・学校推薦型選抜
「文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、自分の言葉で表現できる能力を有するか**、さらに、実証研究に必要なデータ分析能力を有するか**を評価します。」

・一般選抜後期日程
「文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な

柔軟な発想力を有するか、また、自分の言葉で表現できる能力を有するかを判定します。」

https://www.kpu.ac.jp/guidance/policy/admission-policy/

　一般選抜後期日程の小論文については、過去3年間の問題・出題意図等を公表していますので、参考にしてください。

https://www.kpu.ac.jp/admissions/exam/past/general/

Q3．一般選抜では調査書は評価の対象になりませんか。
A3．一般選抜では、調査書を通して、学科の教育研究領域への関心および多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを確認します。

●その他
Q1．新学部では、社会科学データ分析　副専攻プログラムが新設されますが、このプログラムは必修ですか。また、受講にあたり、高校で情報の科目を取っていたり、情報関係の資格等を取得していたりする必要はありますか。
A1．本プログラムは必修ではなく、学生自身による自由選択制です。本プログラムは、社会科学分野のデータ分析を基礎から段階を踏んで身につく内容となっていますので、高校での学びやスキルに関わらず、受講できます。所定の単位を修得すれば「社会科学データ分析副専攻」の修了が認定されます。